

学校目標	高いプロ意識を持ち、お客様とのコミュニケーションを第一に、専門的な知識と技量の向上に努め、社会で自立し活躍する理容師・美容師を育成する。 (現場で評価され信頼される理容師・美容師を育成する)
生徒目標	・プロを目指し、プロとして振る舞い、プロになる ・お客様に喜ばれ、満足され、信頼されるステキな理容師・美容師となる
学校テーマ	キレイのプロはTORIBIで生まれる

評価項目	現状と課題	目標達成のための方策	最終評価まとめ(案)	評価
1 教育課程編成	○「理容師・美容師養成施設における養成課程の標準的なカリキュラム」(厚生労働省)に則った教育課程の編成を継続する。 ○選択必修科目には、トータルビューティを学ぶ授業を継続して開講するとともに、ビジネススキルの基礎となる「ビジネスマナー」も設置し、社会人としての教養や将来の専門分野に関する選択幅を広げている。 ○国家試験の合格率93%を維持する。	○国家試験受験に必要な教科科目の履修と修得を達成し、全員が国家試験を受験するように努める。 ○日々の授業改善に努めるとともに、授業に真剣に取り組む姿勢を、教職員全員で育てていく。 ○学生全員が理美容技術の幅広い基礎を学ぶことを意味する本校の「トータルビューティ」への理解を一層深める。	○トータルビューティの考え方について学生と齟齬が生じている。説明に努め、理解が深まるよう取り組むとともに、トータルビューティを充実させるための教科の在り方について研究する。 ○国家試験合格に向けての取組、対策の充実発展に努める。	B
2 授業内容と研修	○国家試験向けのオーソドックスな授業が多く、学生の興味・関心が薄れる場面が見られる。	○教職員の専門技術の向上を図るため、指導教員を採用している。 ○専門分野に実務経験豊富な講師による授業を多く開設し、学習のモチベーションの向上を図る。 ○学生が習得した知識・秘術を活かし、オープンキャンパスや技術大会への挑戦を促す。	○コロナ禍で校内、校外の行事を縮小せざるを得ない状況があった。次年度は学生が主体的に活動し、発表できる大会、行事等を計画、取り組んでいく。 ○学生の状況、授業の在り方について研修会を実施した。 ○教員の授業力、指導力向上をめざし、他校の授業見学等、職員研修に務める。	B
3 生徒募集と生徒支援	○理美容系専門学校を目指す県内高校生の7割が県外へ進学している。 ○入学時の基礎学力や学習意欲に学生個々の差が大きい。 ○学生の多様化を見据え、教職員がチームの取り組み指導、支援の重要性が高まっている。	○少人数での学び、落ち着いた学習環境、資格取得と就職率の高さなどの特色や学習成果をさらに積極的にPRする。 ○成績処理のシステム化を図り、教職員全員が学生の状況を的確に把握し、一人も取り残さない教育を進める。 ○生徒理解・支援やICT活用などの研修を通して組織としての教育力を高める。 ○インスタグラムを利用し、情報発信を行う。	○業界と連携し県独自の奨学金支援制度の助成を受けられるようになった。 ○麒麟のまち圏域魅力発見支援事業を活用した校外研修を実施した。学生にも好評で、仲間作り、教職員との触れ合い、地元地域を見直す機会となった。 ○オープンキャンパス、セミナー等が充実してきており、学生募集の有効な取組となった。コロナ後を見据え情報発信、学生募集に取り組む。	B
4 教育環境の整備	○建物、施設・設備は老朽化が始まり、計画的な修理、更新を行う。 ○校舎内の環境は、日々の掃除が不十分で清潔感に欠ける。 ○購入物品が多く、物があふれている。 ○用具の整理整頓、効率的な活用を図る必要がある。	○学校営繕費の効果的な運用を工夫し、学校後援会などにも相談しつつ授業環境整備を優先し計画的に更新を図る。 ○サロンワークにつながる整理整頓や丁寧な清掃を心掛け、常に清潔感のある気持ちの良い学びの環境を作る。 ○建物耐震化に向け外部も含めた検討を行う。	○修理、取替が必要な箇所については計画的に修繕、取替を実施することが出来た。耐震診断については今後の課題である。 ○校内の清掃活動について清掃が不十分な箇所もあり、取組に課題があった。清掃活動の徹底に努める。 ○玄関を中心に学生作品の展示、掲示物の工夫をする。	B
5 学校運営全般	○理事会、教職員、学生が共に教育目標に対する方向性を揃え、風通しの良い組織の構築を一層進める。 ○若手教員の採用が進み、資質向上を図っていく組織的な取組や技術伝承が必要である。 ○新型コロナウイルス感染防止対策を、学生とともに確実に実施する。	○本校で学ぶ目的や将来ビジョンについて、学生、教職員、理事会等の共通理解の下で一層の学校活性化を進める。 ○若手教員育成のため、校内外での研修機会の提供を積極的に進める。 ○危機管理は関係機関と連携し、トップダウンで行う。	○教職員の待遇改善を行い、意欲向上に努めた。 ○教職員が将来ビジョンについて共通理解を図り、資質向上をめざした研修会を計画、実施していく。 ○コロナ対応等の基準の見直しも含め、関係機関と連携して取り組んでいく。	B